



平成 16 年 11 月 18 日

各 位

会 社 名 川 田 工 業 株 式 会 社  
代 表 者 名 取 締 役 社 長 多 田 勝 彦  
(コード番号 5931 東証・大証 第 1 部)  
問 合 せ 先 取 締 役 経 理 部 長 渡 邊 敏  
T E L (03)3915-4325

### 中間業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 5 月 24 日の決算発表時に公表した中間業績予想を下記のとおり修正いたします。

#### 記

##### 1. 業績予想の修正について

( 1 ) 平成 17 年 3 月期中間業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 9 月 30 日)

( 単位 : 百万円、% )

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 ( A ) (平成 16 年 5 月 24 日発表)	30,000	300	400
今回修正予想 ( B )	33,040	795	4,730
増減額 ( B - A )	3,040	495	4,330
増減率	10.1	-	-
前期 (平成 16 年 3 月期中間) 実績	35,937	202	117

( 2 ) 平成 17 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 9 月 30 日)

( 単位 : 百万円、% )

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 ( A ) (平成 16 年 5 月 24 日発表)	44,000	800	600
今回修正予想 ( B )	45,600	1,400	2,300
増減額 ( B - A )	1,600	600	2,900
増減率	3.6	75.0	-
前期 (平成 16 年 3 月期中間) 実績	53,026	285	323

( 3 ) 修正の理由

##### 単体

売上高につきましては、主に鉄骨部門の増加により前回予想を上回る見込みであります。

しかし、経常利益につきましては、急速な鋼材価格上昇の影響を受け、販売価格への転嫁にギャップが生じ、鉄骨部門の採算が悪化したことにより前回予想を下回る見込みであります。さらに、減損会計の早期適用に伴う減損損失 33 億円及び販売用不動産評価損 9 億円などを特別損失として計上する予定であり、中間純利益につきましては 47 億円の損失と前回予想を大きく下回る見込みとなりました。

## 連結

売上高につきましては、鉄構事業の増加により前回予想を上回る見込みであります。

経常利益につきましては、持分法による投資利益が大きく貢献し、前回予想を上回る見込みとなりました。しかし、単体での特別損失計上が大きく影響し、中間純利益につきましては 23 億円の損失となる見込みとなりました。

なお、単体及び連結の通期業績予想につきましては、11 月 24 日に予定しております中間決算発表日に公表する予定であります。

## 2. 特別損失の発生について

当社は財務体質の健全化を図るとともに、より着実な収益体制を確立するため「固定資産の減損に係る会計基準」を早期適用し、当中間期において、主として事業用資産を対象に減損損失 33 億円を計上する予定であります。

また、販売用不動産につきましても、都市計画の決定等による要因により販売可能価額まで評価減し、当中間期において 9 億円の販売用不動産評価損を計上する予定であります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報を基に作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以 上